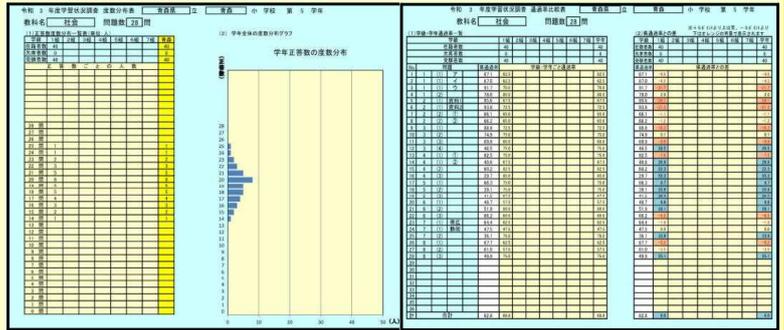


# ～児童生徒の「確かな学力」の育成に向けたさらなる授業改善を～ 学習状況調査及び報告書の活用について

## 「授業改善をよりよく推進するために」

平成29年度の調査から、集計表に「**度数分布**」や「**自校の結果と設定通過率や県通過率の比較**」のシートが付いています。自校の結果を力すると自動計算されます（県の平均通過率は入力する必要があります）。

シートを活用して設問ごとの通過率を基に、授業改善のための自校の課題について検証するなど、分析ツールとしてお役立てください。



## 「報告書には授業改善のための指導例があります」

報告書には、各教科の分析結果や、そこから見えてきた課題に加え、課題解決のための指導例を各教科とも2例掲載しています。また、この指導例は、学習指導要領で示されている「**主体的・対話的で深い学び**」の視点による**授業改善**を意識したものとなっています。各教科での活用はもちろん、校内研修等で共有を図るなど多様な方法での活用が考えられます。そのためにも、**ダウンロードして、いつでも活用**できるようにしてはいいかがでしょうか。

**指導例**

基準量と比較量に着目し、図や式を用いて割合の意味を理解する指導の工夫  
～単元名「物の計算」(第4学年)～

【指導の流れ】  
ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べることについて考えさせる。

問題 ある店のりんごとキウイの、もとの値段と値上がり後の値段の比率を求め、どちらがより多く値上がりしたか答えよう。

【学習活動】 ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べ方を、図と式を用いて説明する。

もとの値段と値上がり後の値段の差で考えよう。  
【大 橋】300→100=□ ①値  
【キウイ】400→200=□ ②値  
大橋は□倍、キウイは□倍の値上がりなので、大橋の値上がりは□倍です。

**指導例**

読んだことを基に自分の考えを書くことを目指した指導例  
【指導の流れ】 Here We Go! ENGLISH COURSE 2 Let's Read 2 Meet Hanyu Yuzuru

1 目的を把握する。  
【学習活動】 先生と生徒とのやり取りを通して、羽生選手の情報を共有する。  
【学習活動】 羽生選手のインタビュー記事を読み、読んだ後にその感想や質問したいことを書くことを目的として読む。

Who is the most famous figure skater in Japan? Yes, it's Mr. Hanyu. If you know anything about him, please tell me about it. Today, we are going to read an interview with Mr. Hanyu. After that, we will write our thoughts and questions to him.

【ポイント】  
・読んだ後に、感想や質問を書くことを示してから読ませる。  
・生徒とのやり取りを通して羽生選手に関する情報を共有し、これから読む英文に対する期待感を高める。その際は、インタビューにはない情報を考え、聞き取らせたり、やり取りさせたりする。

2 インタビュー記事を読む。  
【学習活動】 考えながらインタビュー記事を読む。

羽生選手が一番好きだこと、どのくらい、私の好きな選手です。インタビューにはない情報も共有できたい。

2 つの地震の波の速さを再視し、ICTで音の波の速さを測定することで、授業的に扱えさせる。

【導入】 おんさを震度、ICTを標準化して、実験器具を準備する。(アプリ Oscilloscopeを利用)

① おんさとICTの距離を1.5mにして、おんさを強くたたき、直後の波を測定する。(図1)

② おんさとICTの距離を6.0mにして、おんさを強くたたき、直後の波を測定する。(図2)

【実践】

① おんさとICTの距離を1.5mにして、おんさを強くたたいた場合

② おんさとICTの距離を6.0mにして、おんさを強くたたいた場合

報告書は県教育委員会のホームページからダウンロードできます。  
掲載先は<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kyoiku/e-gakyo/jyoukyouchousa.html>です。  
指導例は県総合学校教育センターのホームページからもダウンロード可能です。

## 「各学校ではこんな活用をしています」

調査や報告書の活用に工夫して取り組んでいる学校があります。自校では、**どのような取組が有効か組織的に検討**し、できることから取り組んでみませんか。

以下は令和元年度に実施した学習状況調査の活用アンケートの回答からの抜粋です。

### 【小学校】

- ・校内研修の時間に解答を全教員で行い、出題の意図や本校児童の誤答の傾向を共通理解することができた。
- ・通過率や県平均に届いていない設問に対して、自校の誤答例を分析して指導改善の視点を明らかにした。その上で、実施報告書に例示されている指導例を参考にしながら事後指導をして定着を図ることができた。
- ・第5学年において、正答率が低い内容の補充を行うほか、第4学年で該当内容を指導する際に、より丁寧に指導することで、学習内容の定着が見られた。

### 【中学校】

- ・分析結果に基づいて、生徒の実態や指導方法を共通理解して、授業改善を行うことができた。
- ・学習状況調査の分析結果を教員で共有することによって、次年度の校内研修の課題設定や各教科の指導計画の改善に生かされた。
- ・教員全体で生徒の苦手とする設問や傾向を認識することができた。その上で、各教科において授業における発問の質の向上や課題提示、まとめの方法など授業改善をするためのポイントが明確になった。